

事業名	和牛の産肉能力検定事業並びに和牛人工授精及び種畜改良		
予算区分	県単 (40,026千円)	担当	改良技術研究室 育種改良研究グループ
事業期間	継続 (昭和43年度～)	協力関係	
事業目的	和牛の雄牛について、直接検定並びに後代検定を実施し、産肉能力を判定し、優秀種雄牛の早期作出を行い、もって和牛改良に資する。 また、岡山県の精液(黒毛和種)供給のメインセンターとして凍結精液の生産・保管・配布し、優良遺伝子の保存を行う。		

○ 本年度事業のねらい

事業1 産肉能力検定(直接法)

〈事業の内容〉

肉用牛広域後代検定推進事業で選定された基礎雌牛から生産した優良雄子牛について、約8ヵ月齢から112日間(16週)飼育試験を実施し、増体能力や体型から候補種雄牛を選抜する。

事業2 産肉能力検定(現場後代検定法)

〈事業の内容〉

事業1の産肉能力検定(直接法)で選抜した候補種雄牛の産子(後代検定牛)を畜産研究所及び県内肥育農家で去勢29ヵ月齢、雌32ヵ月齢を上限に肥育し、枝肉成績により産肉能力を判定して基幹種雄牛を選抜する。併せて、後代検定牛を確保するため、県内繁殖牛に対して調整交配を実施する。

事業3 精液生産・配布

〈事業の内容〉

岡山県の精液(黒毛和種)供給のメインセンターとして、凍結精液の生産、備蓄及び配布を行う。

- ① 種雄牛繋養頭数 16頭
- ② 精液生産計画本数 11,920本
- ③ 精液配布計画本数 3,520本(特級2,020本、2級1,500本)

○ 前年度までの成果

H27年度

事業1 産肉能力検定(直接法)

3セット6頭の直接検定を実施し、全てを終了した。検定終了牛から1頭(百合高)を候補種雄牛として選抜した。

事業2 産肉能力検定(現場後代検定法)

千代玉、千代花桜の2頭の検定が終了し、非選抜となった。

藤沢茂は、16頭中13頭の検定が終了し、成績から基幹種雄牛に選抜されることとなった。

また、藤沢茂は、家畜改良事業団が行った連携事業により、供用種雄牛として選抜された。

事業3 精液生産・配布

- ① 種雄牛繋養頭数 17頭
- ② 精液生産本数 10,524本
- ③ 精液配布本数 4,458本(特級1,168本、2級3,280本)

(H28年2月末現在)

# 優良種雄牛の作出

